

エリートツリーから多様な林業の可能性を考える

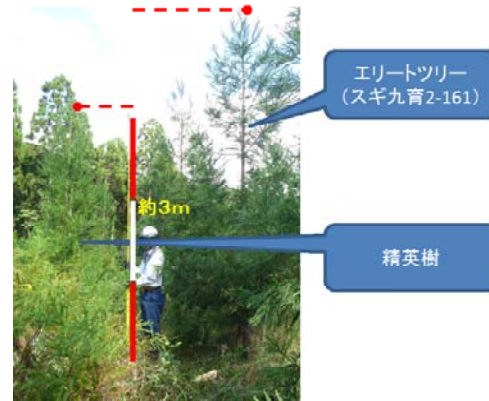
九州森林管理局 森林技術・支援センター
 業務係長 田中 和利
 森林技術専門官 釜 稔

1 はじめに

国内の人工林が本格的な利用期を迎える中、一貫作業システム等により、再造林の低コスト化への取組が進められています。

今後、更に低コスト化を進めるには、下刈回数の低減などが大きな課題と考えています。

こうした中、当センターでは、平成21年2月に関係機関の協力のもと、成長の良いエリートツリーを低密度で植栽し、造林・保育の低コスト化等の試験を実施しています。これらの成果等から、エリートツリーコンテナ苗を植栽することによる多様な林業の可能性について提案を行います。

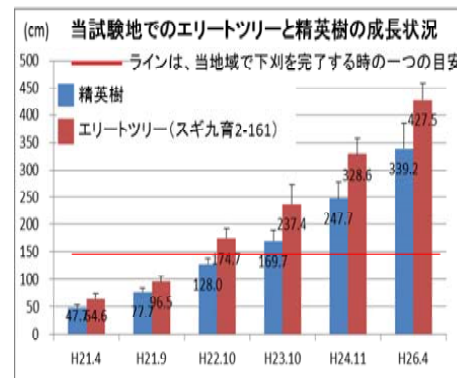


2 試験概要と得られた成果等

(1) エリートツリーの成長について

宮崎県都城市の国有林伐採跡地にエリートツリーを疎密度（1,500本/ha程度）に植栽しています。

平成21年2月に植付を実施した丸育2-161の平成26年4月（5成長期経過時）の平均樹高は427.5cmと優れた成長を示しており、比較用として植栽した精英樹を上回っています。



また、エリートツリーについては2成長期を経過した時点で150cmを超えており、当試験地の雑草木の状況から、下刈は1~3回程度実施すれば、それ以降は省略できるものと推察されます。

3 今後の検討事項

成長の良いエリートツリーや少花粉品種等は、間伐特別措置法の改正により特定母樹への認定とその増殖が促進されようとしています。今後の苗木需要に応えるため、「穂木の確保」をどうするのか、新たな育苗技術の検討が必要です。

そこで、各県の採穂園の整備と併せて、各県から配布された穂木を苗木生産者が育苗し造林地に植栽されることから、この植栽された造林地を母樹林として直接採穂することが考えられます。

この方法については、長所、短所がありますが、国有林では、エリートツリーコンテナ苗の普及を支援するため、試験地から採穂育苗し植栽することで、生育状況を調査観察し、現地への適応性の検証等も含めて取組を進めています。

4 多様な林業の可能性

現在、必要とされる木材は高品質材よりも並材であり、品質の確保された成長の良いエリートツリーを植栽することによって、今より短いサイクルで施業することも一つの方法と思慮されます。

このようなことから、一貫作業システム等（主伐と植付を同時に行う）により省力化及び低コスト化を図り、エリートツリーコンテナ苗を1,500本/haで植栽することによって下刈回数を1~3回で完了させます。5~9年後には穂木の売り払いによる収益も考えられ、その後必要時期に除伐を行い、間伐については今後検討が必要ですが、30年後には再び伐採・更新となります。

スギの成長に適した九州において、エリートツリーを活用することにより低コスト化を図り、収穫サイクルを早め木材需要の変化への対応や、シカ被害、災害等のリスクも低減される可能性があるものと考えます。

